

嶺南における地域資源の新たな魅力創出プロジェクトについて

(1)目的

- ・交流人口増加、地域経済の活性化
- ・持続的な地域の振興(地域で活躍する人材の育成)

(2)全体概要

- ・R9からR12まで、統一テーマのもと、地域資源とクリエイティブな外部人材を掛け合わせた地域づくりを進め、置県150年となるR13年に記念事業として大規模な文化観光イベントを実施
- ・福井県長期ビジョンに掲げる「WAKASAリフレッシュエリア」実現に向け、地域ブランディングを進める

年度	区分	主な取り組み内容
R8	計画策定	策定会議 住民ワークショップ シンポジウム R9～13の実施計画策定
R9	事業開始	地域資源とクリエイティブ人材を掛け合わせた地域づくり ・クリエイティブ人材と協働し、住民が主体となって活動する地域の素地づくり ・文化芸術への理解促進・機運醸成
R10	事業継続	
R11	事業継続	
R12	事業継続	
R13	最終年度・記念イベント	置県150年記念イベント R9～12の内容を踏まえて実施

嶺南における地域資源の新たな魅力創出プロジェクトのイメージ

- ・住民ワークショップやアンケートを通じ、食や伝統芸能等、次世代に遺したい地域資源を抽出
- ・抽出された地域資源の新たな魅力を外部人材の視点で引き出し、県内外に発信



R9以降の実施内容(案)

テーマ

育ち

- ①「^{さわ}触れる」「学べる」「遊べる」芸術作品の設置
- ・嶺南の地域資源の魅力をアートで発展させて体験
 - ・ワークショップの開催等、アーティストと住民の創造的な活動
 - ・作品は恒久作品として設置し、日常から触れる、遊べるものに

- ②若手アーティストによる滞在制作
- ・公募若手作家が嶺南地域に滞在し、作品制作
 - ・滞在時は、住民との交流、地域資源の掘り起しなど実施
 - ・コーディネーターとして地域おこし協力隊活用

- ③アートキャンプによる学生交流
- ・県外美大生と県内学生が交流、作品制作
 - ・次世代のアート関係人材の育成

- ④置県150年記念イベント
- ・設置作品を中心に若手作家と連携したアートイベントを企画し、プロモーション
 - ・R9～12に実施した内容をもとに嶺南一体を周遊

……その他「テーマに沿った事業」を市町の要望・意見から企画

嶺南における地域資源の新たな魅力創出プロジェクト 将来イメージ

福井県長期
ビジョン
(2040年)

達成のため
の手段

テーマ(仮)

フェーズ
目標

実施内容
(想定)

(参考)
地域資源

WAKASAリフレッシュエリア

「文化的・健康的に過ごせるくらしの先進地」

地域資源×クリエイティブ視点

地域に根差した資源とクリエイティブの力で、嶺南の新しい魅力を創出
地域資源をもとに文化、観光、産業が循環し、国内外から人が集まる地域を目指す



「育ち」(人材・産業の育成による地域の成長など)

第Ⅰ期(R9～13) 点の創出

地域資源の可視化
モデル事業の展開
住民理解の醸成

- ・住民ワークショップやアンケートで地域資源を掘り起こし
- ・地域資源とクリエイティブ視点が融合したモデル事業を各地で立ち上げ
- ・モデル事業の実績をもとに、置県150年記念イベントを実施

第Ⅱ期(R14～18) 面への拡大

市町横断、周遊などエリア拡大
モデル事業の進化・定着
住民主体の活動の増加

- ・モデル事業を市町連携やエリア周遊事業に進化
- ・事業期間外も来訪者が継続する仕組みの整備
- ・住民の自主的な活動拡大
- ・データ分析による来訪者分析、継続的改善

第Ⅲ期(R19～) 持続モデルの確立

国際的な認知向上
民間レベルでの事業自走化
住民の幸福実感向上

- ・通年型の文化・観光プログラムの整備
- ・国内外からのクリエイティブ人材が交流(関係人口)

文化・歴史



伝統芸能、祭り、
寺社仏閣など

食・産業



山海の幸、工芸など

自然・景観



ビーチ、半島、湖など

体験・暮らし



街並み、漁家民宿、
アウトドアなど

人・地域の力



地域の人々のつながり、
活動・団体の取組など

事業計画策定スケジュール

「嶺南における地域資源の新たな魅力創出プロジェクト」計画策定会議等の開催スケジュール

	令和8年 8月	9月	10月	11月	12月	令和9年 1月	2月	3月
策定プロセス	事業内容・実施時期の概要を議論							事業計画 策定
策定会議 (知事・首長)	第1回 8/24 ・事業概要 ・全体進め方確認 ・W/S 内容 ・ディレクター決定 ・ディスカッション(生かしたい地域資源、実施したい活動等)		副町長 ・県まとめ案を提示 ・全体協議 ・中間報告					第2回 ・事業計画策定
担当課長会議	担当第2回 8/4 (Web) ・策定会議資料まとめ・提示	担当第3回 ・策定会議での意見をふまえたディスカッション	担当第4回 ・県まとめ案提示			担当第5回 ・計画案を提示		
住民・ディレクター・委託業者等		アンケート ワークショップ ・地域の機運醸成 ・地域資源の洗い出し ・市町別、世代別等のアイデア出し、住民の主体性・参画意識の向上、住民意見を計画に反映				住民向けリーフレット作成		シンポジウム 3/6or7 ・地域の機運醸成
県議会		9月議会			12月議会		2月議会	

総合ディレクター(監修者)について

1 総合ディレクターの業務

- ・事業計画策定(コンセプト、企画内容など)
- ・事業全体のとりまとめ、監修(方向性を一致させ、一体感が出るよう伴走支援)
- ・クリエイティブ人材の選定・紹介
- ・国や海外先進事例、民間企業との連携 など

2 候補者



森美術館 館長 片岡 真実(かたおか・まみ)氏

- ・2003年より森美術館、2020年より現職
- ・2023年4月より国立アトリサーチセンター長(～2026年3月) ※1
- ・2026年4月より同センター エグゼクティブ・アドバイザー
- ・京都芸術大学大学院教授、ICA(Institute of Contemporary Arts)Kyoto所長 ※2
- ・CIMAM(国際美術館会議)では2014～2022年に理事、2020～2022年に会長を歴任
- ・国際芸術祭「あいち2022」芸術監督(2022年)

【選定理由】

- ・国内外のクリエイティブ人材との人脈が豊富で、世界とのつながりをつくることが可能(スケール Scale)
- ・国立アトリサーチセンターでも教育とアートに関わっており、「育ち」というテーマに合致

※1 わが国の文化芸術振興政策にもとづき、独立行政法人国立美術館のナショナルセンターとしての機能の強化、情報収集と国内外への発信、ネットワークの構築(企業、多様な人材)、ラーニングの拡充、クリエイティブ人材の支援などに取り組んでいる。

※2 京都芸術大学大学院の附置機関として大学院教育とも連携しながら、これからグローバルに活躍する人材を育成するため、アジアを中心にアーティストやキュレーターのネットワークを構築